

## 第1回 丹波市丹（まごころ）の里創生総合戦略推進委員会

日時 平成28年8月22日（月）

19時30分～22時00分

場所 氷上住民センター 実習室

出席者（敬称略・順不同）

○委員 北村久美子委員、小橋昭彦委員、里尚委員、谷水ゆかり委員、能口秀一委員、畑道雄委員、横谷典幸委員、関谷大志朗委員、足立頼昭委員、大木玲子委員、足立浩委員、三井優生委員、前田文雄委員、酒井芳朗委員、山下淳委員、岡絵理子委員、足立昌彦委員、北山芳明委員、大久保徹委員

※欠席：荻野祐一委員

○丹波市 辻重五郎市長、鬼頭哲也副市長

（事務局）西山政策担当部長、近藤総合政策課長、福井総合政策課地方創生戦略係長、船越総合政策課地方創生戦略係主査

### 1 開会

### 2 市長あいさつ

みなさんこんばんは。夜分お疲れのところお集まりいただきありがとうございます。平素、丹波市政についても温かいご指導ご支援を賜りまして厚く御礼申し上げます。昨年度は丹波市丹（まごころ）の里創生総合戦略につきまして、懇話会、各グループでご討議いただいた経過がございますが、総合戦略策定に非常に貴重なご意見を賜った訳でございます。いよいよ2年目になる今年度は懇話会から推進委員会に改名いたしまして進めていきたいと思っております。役職の交代で新しく委員になられた方以外は、昨年度に引き続き委員としてお世話になるということでご快諾をいただきましてありがとうございました。本来であればお一人お一人に委嘱書をお渡しするべきところではございますが、机上に配布させていただいて失礼をいたしておりますがよろしく願いいたします。総合戦略は4つの基本目標で72の施策を計画しており、地方創生元年と言われる平成27年度は国からの地方創生交付金を活用させていただき実施をしまいいりました。総合戦略の着実な推進のためには、設定した数値目標を基に前年度実施した事業の評価・検証、また必要に応じて改定を行うことが重

要であると考えています。本日は平成 27 年度に実施した事業について、客観的な評価をお願いしたいと思っております。また、施策の見直しや検討についてもご意見を賜りたいと思っております。今までにない新しい視点での取り組みを考える必要があると考えておりますので、委員の皆様には貴重なご意見を賜りますようお願いいたします。

### 3 委嘱書交付

机上配布で交付を行った。

### 4 事務局紹介

変更となった事務局員の紹介を行った。

### 5 丹波市丹（まごころ）の里創生総合戦略推進委員会の所管事務について【資料 1】

※事務局より説明

### 6 会長・副会長の選出及びあいさつ

会長 山下淳委員

副会長 里尚委員

### 7 会長あいさつ

皆さんこんばんは。昨年度総合戦略を策定し、策定した以上は進捗管理についても責任を持つべきだということで大半の委員の方が会の名称は変わりましたが、改めてお集まりいただいたということになっています。昨年度に引き続き会長を任せて頂いたということで、どこまで丹波の事が分かっているか自信がない所もありますが、その点は委員の皆様のご協力により進めていければと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

### 8 報告事項

※事務局より説明

#### (1) 平成 27 年国勢調査速報について【資料 3】

会長：報告について何か質問のある方はおられますか。

質問無し

### 9 協議事項

※事務局より説明

(1) 地域活性化・地域住民生活等緊急交付金（地方創生先行型交付金）

平成 27 年度活用実績【資料 4】

(2) 平成 27 年度事業効果検証について【資料 5・6】

(3) 質疑・意見

会長：これから我々が何をするのかということ、まず 1 つめは資料 6 に基づいて 1 事業 1 シート、72 事業あるが全て議論するわけではなくて、この内、国の交付金を用いた 17 事業について意見を出し合う。17 事業ということで 1 事業 5 分としても 1 時間半かかるため、進行にご協力をいただきたい。2 つめは資料 5 の総合戦略の 4 つの基本目標ごとに、全体の達成状況や今後の方向性についてのご意見を頂きたいと思っています。進め方ですが、17 事業全て初めに説明されたのではよく分からないことになるので、1 事業ずつ事務局から説明をいただいた後、意見を出し合いたいと思います。

【木の駅プロジェクト】

※事務局より説明

委員：目標値を達成していない原木の集荷量については、目標値の半分となっている。全国の木ノ駅プロジェクトは 70 団体にまで増えているが、丹波市の木ノ駅プロジェクトの特徴としては、全国モデルにもなっている安全教育の実施である。チェーンソーの講習や林材の運び出しというようなものを積極的にやることを目指しており、登録した後の安全講習を登録者で受けるといったことから、集荷量に直接結びついていないというのが現状です。平成 28 年度については、講習の参加者も多くなってきましたので徐々に各自でグループを作って出荷をする予定です。現状では、70t を超えた所で推移しており、徐々に出荷も増えていく予定です。

委員：市島の災害の現場に近いところに住んでいるのだが、薪ストーブの情報があまり入ってこない。地域の拠点や自宅を改築する時に薪ストーブは魅力的なので、早めにそういった情報を入れてもらえたらと思う。広報をどのようにされているのか伺いたい。

委員：薪ストーブの購入助成を手厚くされている。助成件数が少ないことから、いきわたっていないところもある。地域資源が針葉樹主体で構成されていることから、針葉樹の薪ができるだけ使えるようなものを普及させ、薪の循環を目指そうとしている。

事務局：1ヶ所 20 万円の助成を行っており、予算を超え補正対応をしている。PR についてもこれからしっかりとやっていきたい。

委員：木の駅プロジェクトは新聞記事に掲載させてもらっているが、ストーブそのものに対しての PR が足りない。実際にストーブを使うことによってどういうふうに住生活が魅力的に

なるのかといった総合的な提案をもっとすべきではないかと考える。

委員：この事業に限ったことではないが、予算があって、事業にどのくらい使って、どのくらいあまったのかを知りたい時、実績額と予算額の関係はどこを見ればわかるのか。

事務局：平成 27 年度は決算額、平成 28 年度は予算額しか載せておりません。

会長：平成 27 年度についても実績額だけではなく、予算額も記載して頂かないと次年度の予算の決定や比較ができないということですので、今後市事務局のほうで検討して下さい。

委員：委託先が薪を生産するというものではなくて、制度を作って 57 名の方が現在登録され、その方々が地域参加で活動され、出荷する原木の集荷量が 50 t ということで、登録者が増えてきていますので、今後集荷量も伸びていくと思われる。

#### 【認定新規就農者等支援事業】

委員：農業だけで収入が得られ生活ができることが大切である。儲かるようなやり方や指導を支援してくれるところとの連携がないといけない。

委員：若い人達は夢を持って丹波市にやってくるので場所を提供すれば、高価な暮らしはそれほど求めていない傾向がある。それよりも、セカンドライフを楽しむ人を丹波市に呼び込むほうがよい。お金には不自由していない人に新しい価値を提供してあげるほうが効果があると考えます。それよりも、丹波市外の方が丹波市で働く際に、住まいの問題やそれに対する補助がないほうが問題である。

委員：評価の方法ですが、目標値での評価となっており、上回っていれば非常に効果があったと評価できるが、中身を踏まえて効果を図るとなると非常に分かりにくい。K P I の数値だけで評価を行っていない感じを受ける。

事務局：記入の仕方としては、K P I を元に評価をするようにしているが、実際は数値では図れない部分も評価に繋がっている。

会長：全体的に指標自体の見直しが必要であるものもあるため、担当課に繋いでほしい。

委員：新規就農については、初期投資や技術面等大変難しい部分がある。市・J A で話しているのは、共同出資法人を設立し、研修生を受け入れ栽培技術等の習得を図り、モデルファームの様な形ができないかと考えているが、設立までには至っていない。今後、実現に向け取り組んでいきたいと思っている。

#### 【人材としごとのマッチングの推進】

委員：いまだかつてない人手不足で、兵庫県全体でいいますと平成 27 年 8 月に有効求人倍率が 1 倍を超えている。平成 28 年 7 月が求人倍率 1.15 でこれはバブル期（平成 2、3 年）の 1.14 を上回る倍率となっている。丹波地域においても 1 倍を越えている中、ぜひともハローワークも連携していきたいと思っている。求人は確保できると考えており、住むところ

と求人をごマッチング・セッティングしていくかということになる。

会長：担当課の評価が地方創生に相当程度効果があったにも関わらず、今後の方向性がCである事業がある。その場合、むしろ事業の拡充ではないかと考えられるものもあるため、どういう趣旨でその評価になるのかを今後のこともあるため市のほうで検討いただきたい。

#### 【雇用奨励金事業】

委員：正規・非正規職員の処遇が違う。賃金でいうと非正規職員は正規職員の半分以下である。同等の処遇を行う企業を探し、企業だけければよいのではなく、正規職員を雇用する企業の誘致を行ってほしい。

委員：厚生労働省が行う新規雇用やキャリアアップ助成金があるが、併給調整はかかるのか。

会長：今日は担当課が来ていないため、細かいところまでは分からないと思うので後日事務局から回答してもらおう。

委員：20人ほどの工場を運営しているが、正規職員として社会保険等に参加する日本人男性を雇用していたのでは採算が取れない現実がある。丹波市を総合的に考え、全ての課が連携し1つの事業に取り組まないとこの事業だけを伸ばそうとしても無理がある。

会長：成果数値を見た時に、この事業は地方創生に効果があったのか。

事務局：企業誘致を行い、工場の増設や設備投資が伴った上で、正規雇用や非正規雇用から正規雇用などの条件があります。平成27年度については、設備投資を行う企業が少なかった事に原因があるようですが、地方創生には効果がなかったわけではないということになります。

#### 【雇用対策補助事業】

委員：各事業所にかなり喜んで頂いている事業であり、今後も継続していただきたいが、なぜ今後の方向性がCなのか疑問が残る。中小企業基本法にのっとった対象者となり、活用できない事業所もあることから幅広く検討して頂きたい。

委員：数値目標、成果数値が平成26年度とあまり変わっていない。伸ばしていこうとするのであれば、今後の方向性はCではなくBくらいにしないといけないではないか。昨年と同じ人が同じようにやっていたように見えるが改善しないといけない。

事務局：特に女性従業員の教育訓練は今後伸ばしていきたい。平成29年度の目標に向け検討は行っているが、具体的な施策ができていない。有効な施策がない現段階では現状を維持してやっていきたいと考えている。

委員：担当課としてはその評価でいいかもしれないが、委員としてはその評価でいいのかと思う。去年やったことと同じことをやるのは当たり前で、去年以上のことになっていないと

おかしい。女性従業員が増えているのかといった面もあり、様々なものが関連して大変難しいとは思いますが是非推進してほしい。

委員：企業を誘致しようにも人がいない。人を育てようにも企業がない。この部分を解決するような施策が必要である。個人向けの女性の教育プログラムを作るのもいいと思うので拡充していてもよいと考える。

会長：改善策がないからCという評価でいいのかを是非担当課には考えていただきたいと思います。

#### 【丹波市創業支援計画】

委員：平成 27 年度の新たな起業が 23 件中 3 件がチャレンジカフェを通じたものとなり、連携事業としてはかなり効果があったものと考えている。

委員：金融機関としては起業される場合、事業内容の評価に行政の計画認定と資金を貸すという立場から、実際に回収できるかという評価に温度差がある場合がよくある。これまでにない新たな事業をされる場合、評価するのに難しい面もある。融資を受けたいといわれる若い方の場合、信用力や保証の部分をどう補完していくかがあり、起業後の支援をどうしていくかがないと起業してすぐに廃業では何もならない。アフターフォローが大切ではないかと考える。

#### 【新規起業支援事業補助金事業】

委員：この事業は商店街などの空き店舗を活用した事業になっているが、実際に起業される方の中に空き家を活用される方が増えている。今はそういった方は対象になっていないが、今後幅を広げて頂くことで活用が進むのではないかと考える。

会長：平成 27 年度成果数値が 1 件となっているが、年度によって増減が激しい事業なのか。

事務局：補助対象となる業種が製造業、サービス業及び小売業などとなり、商店街の活性化のための空き店舗の利用などの限定があるので、自宅で開業されたり、空き家を利用したりした場合は、対象となっていないこともあり伸びていない。

委員：県でも同じような支援策があり、市で対象とならないものについては、県の支援策を活用したり、他の支援策を活用したりして商工会では対応しています。

#### 【IT関連事業所振興支援事業補助金事業】

委員：IT事業者はクラスター化でいることが価値が大きい。現在は青垣・春日にIT事業者があるが遠い。一定の場所に3社以上集まっていればいいので、少しそのあたりの地域性も意識して考えてもらえれば優位性が発揮できるので、そういう視点も入れて改善していただければと思います。

会長：指標の分析に成果数値のみ追いかけることは難しいとあるが、この事業だけで評価で

きないのは分かるが、関連する事業はどうなっているのかがこのシートからは見えない。

#### 【丹波スターコンテンツ活用事業】

委員：3つの素材（粟・黒大豆・丹波大納言小豆）を丹波三宝として決定し、今後丹波市は丹波三宝で売り出していくべく進めている。立ち上がったばかりで詳細は決めていないが、協議会の会員も増えており、菓子組合よりも多くなっている。今後については、丹波三宝をどういった形で発信していくかということと儲かる仕組みを考えていくことになる。この丹波市産の3つの素材が手に入りやすく、手に入れやすく、加工しやすく、PRしやすくという方向性を持ってやっている。

委員：予算を見てみるとPRチラシとスイーツフェスティバルの開催業務しかないがこれでいいのか。

委員：丹波三宝の協議会ができることを前提とした予算になっていない。たまたまスイーツフェスティバルの事業の中で、メンバーの思いから生まれた事業であって、当初はスイーツフェスティバルの開催の予算しかみていない。

委員：丹波栗、丹波大納言小豆、黒大豆は関西では広く丹波のものとして知られており、うまくPRすればあっという間に元気になる。素材の部分についても、確実に手に入るような新たな支援について予算をつけていけばいいと考える。

委員：継続ではあまい。名産を生み出すのであれば、もっとずうずうしくいけばいい。1つのものでイベントを年中やり続ける。それには大したお金はかからない。それぞれの店が考えて、PRして、行政は地図を作るだけでできる。そのくらい売れるものであると考えている。そういうところはマスコミを利用すればよいが、1回のイベントではマスコミはそこまでPRできない。もっと継続して打ち出していく熱意が必要である。

委員：丹波大納言小豆については、農業振興課、県民局、JA が一緒になって小豆フェアをやられているが、観光振興課と重複していたり、もったいないことになっていることがあるため、調整が必要である。商品開発数が2というのも非常に少ない。横の連携をもっととってより効果的なものにしていただきたい。

#### 【丹波市移住定住ガイド“TURN WAVE”-丹波-ホームページによる情報発信】

委員：複数あったホームページを1つにして見やすくしている。常に情報発信をし、新しくしていくことが必要と思う。今後も戦略的に常に攻め続けなければならない。数値目標・成果数値のアクセス数の見方が非常に難しく、実際にどう定住に結びついているのか実績数と比較評価できるものなのか分からないが、少しずつ伸びており今後期待している。

会長：アクセス数を目標に設定するのはいいと思うが、アクセスの量ではなくアクセスした満足度であったり、次にどうつながったのか知りたいところですが、指標としては捉えにく

く難しい。

**【田舎暮らし相談会の開催】**

委員：兵庫県として一体的な出展が必要ということだが、インターネットで『丹波 カフェ』で検索をしても篠山市が出てくる。丹波市で売っていくためには、丹波市で頑張るしかなくて、支援はしてもらえばいいが兵庫県で一体的にする意味はあまりないと思う。

委員：県民局の外へ向けて出かけていく委託事業で、外に仕掛けるのが県民局、中で引っ張っていくのが市とういことで、そういった部分では連携が必要である。人との接点を増やしていくことが必要で、実はこの部分は篠山市のほうが少ない。カフェなどの物件ベースは篠山市が有名だが、ここにこういった人がいるからそこに行こうといった人の部分は丹波市のほうが圧倒的に魅力的である。今後もそういったところを伸ばしていってもらえたらと思う。

**【空き家バンク「住まいるバンク」事業】**

会長：住まいるバンクを通じた空き家の成約数の数値目標が平成 27 年度は 2 件だが、平成 28 年度は 10 件となっているがどうか。

事務局：空き家対策基本計画に基づいた数値を目標値としている。

委員：単に持ち主との交渉や空いている所の紹介ではなく、コミュニティのマッチングであるとか、非常に裾野の広い事業であるが、そのあたりの支援はきめ細かくされているのか。空き家バンクはどこでもやっている事業で、丹波市ならではのきめ細かさを出せば、環境は申し分ないので、もっと伸ばせるのではないかと思う。

事務局：住まいるバンクについては、地域おこし協力隊 1 名が業務にあたっている。自治会や移住者に対し顔の見える環境を作り、安心して移住してもらえるようにしている。

副市長：空き家対策については、全国的にみても丹波市の行っている施策はトップクラスである。これだけ充実した施策をとっている所は聞いたことがない。実際、様々な自治体が丹波市に話を聞きに来ている。

**【大学との地域住民連携による空き家再生活用モデル事業】**

委員：平成 27 年度は主にハード面の整備を中心に行った。今後はどういう人が利用・活用するのかを考えていかなければならない。まず使ってもらうためには、知ってもらわなければならない。どういう人にどういう風に発信していくのか協議をしているところです。

会長：数値目標も含め事業としてはどういう形になるのか。

事務局：衣川邸の中で、新たなシェアオフィスやチャレンジショップをしていく人を増やしていくということだったのですが、少し内容が変わってきているようですので、数値目標の見直しをしていかなければならないかもしれない。

委員：新しくシェアオフィスを作るという事業なのか。今後の方向性Bで平成28年度予算が0というのはなぜか。

事務局：これは衣川邸を活用することに限定した事業です。一般的に空き家を改修する事業は別の事業となりますが、それについては平成28年度からとなりますので、今回の評価には入っていない。新たな活用策に取組まれており、そのあたりを考慮しBとなっている。ハード整備は市（国庫補助）が補助し、その後は官民連携の中で自立してもらうことが必要であることから、Bが必ずしも予算増額にはならない。

#### 【丹の里田舎暮らしワンストップ相談業務】

委員：従来は丹波の森へ出向いての相談だったものを、メールでの相談も出来るというような戦略を変えたことから成果があがったと感じている。相談件数については、メールのやり取りを頻繁にすると件数も増えるということになることから、窓口に来られ相談された人数ではないが、より細かな対応が出来るようになったという評価ではないかと感じている。

#### 【ツープラス1出産祝金の支給】

委員：ありがたいと思うが、子どもを生んでそれに対してお金が出ているのが切ない感じがする。

会長：このシートは効果があるかどうか疑問だというような書きぶりになっているが、方向性は継続となっている。先延ばしということか。

事務局：平成30年度までの事業であるため、平成29年度にアンケート調査を実施し、他の子育て施策と総合的に考えながら見直しをしていくということです。

副市長：事業の発足当初は5年間ということにしていたが、前倒しで結論を出そうというような考えでいる。

会長：この事業だけを見直すのではなく、子育て施策全体の見直しが必要ではないかと思う。

委員：不妊治療の支援をしてほしいという相談が多い。確実に出生率を上げるためには、生みたいと思っている人に支援を拡充したほうがよいと思う。

#### 【看護師配置事業】

委員：看護師を雇用するためには、処遇を改善する必要がある。特に子育てを終えた看護師の配置が望ましい。

#### 【丹波市子育てポータルサイト運営】

会長：ホームページのアクセス数が指標になっているが、これとアクセスした後の行動が分かるような指標が必要である。また、常に新しい情報にしていくことが大切である。

10 次回推進委員会開催日程

第2回丹波市丹（まごころ）の里創生総合戦略推進委員会

日 時：平成28年11月予定

場 所：未定

11 閉会

副会長：それぞれのテーマごとに貴重な意見を頂きました。大変遅くまで議論いただき有難うございました。